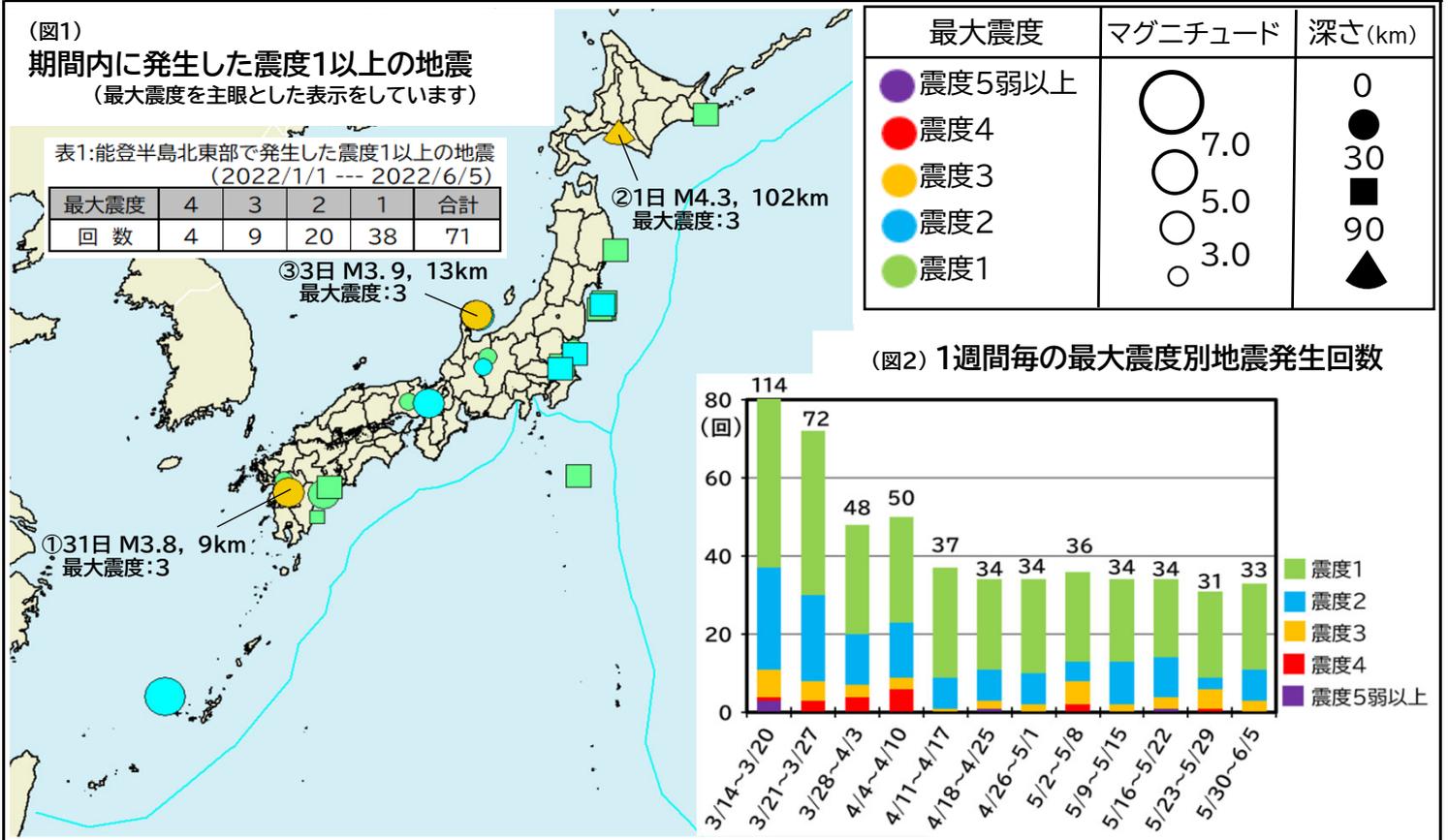


この期間の最大震度は3

本資料は上記期間に国内で発生した震度1以上の地震についてまとめたもの (出典:気象庁震度データベース/地震情報)



主な地震の発生状況 (図1,図2参照)

- この期間、震度1以上の地震が33回発生。最大震度は3。 ■
- ①31日04時32分に熊本県熊本地方で発生した地震(M3.8、深さ9km)により、熊本県八代市で震度3を観測したほか、長崎県、熊本県、宮崎県及び鹿児島県で震度2~1を観測。この地震は地殻内で発生した横ずれ断層型。この地震は平成28年(2016年)熊本地震の余震域内で発生したもので、震度3以上を観測したのは2021年9月13日に発生したM3.7の地震により嘉島町で震度3を観測して以来。
- ②1日10時19分に日高地方西部で発生した地震(M4.3、深さ102km)により北海道千歳市で震度3を観測したほか、北海道と青森県で震度2~1を観測。この地震は太平洋プレート内部で発生した横ずれ断層型。この付近で深さが100kmを超えるM4以上の地震の発生は珍しくない。
- ③3日13時29分に石川県能登地方で発生した地震(M3.9、深さ13km)により石川県珠洲市で震度3を観測したほか、石川県内で震度2~1を観測。この付近では2020年10月から震度1以上を観測する地震が続いている。今年に入ってから昨日5日までに、この付近を震源地とする震度1以上の地震が71回発生(表1)。

トピックス

■ 1978年宮城県沖地震と想定宮城県沖地震 ■

- ・次の日曜日6月12日は、宮城県沖地震の発生から44年目にあたる。
- ・宮城県沖地震は約38年間隔で発生しており、これまでも繰り返し被害を受けており、1978(S53)年の地震(M7.4)は特に被害が大きく、地震の揺れにより28人が死亡、1,325人が負傷し、住家の全半壊約7,000棟。特に仙台市で被害が大きく、死者28人のうち、ブロック塀や門柱の崩壊による死者が18人であった(日本被害地震総覧による)。
- ・この地震を契機として3年後の1981(S56)年に耐震基準が大きく改正された。
- ・それまでの耐震基準(旧耐震基準)は、震度5の地震で建築物が倒壊・崩壊しないことを基準としており、震度5を超える地震については想定されていなかった。
- ・宮城県沖地震を契機として改正された新耐震基準では、震度6~7程度でも家屋が倒壊・崩壊しないことを基準とし、耐震性能が格段に上がった。阪神・淡路大震災や熊本地震においては、旧耐震基準で建てられた建物と、新耐震基準で建てられた建物との間で倒壊した割合に大きな差があり、新耐震基準の効力が改めて確認された。今年の福島県沖の地震でも同様なことが見受けられた。
- ・宮城県沖では11年前に巨大地震が発生したので、しばらくは発生しないだろうと考えてはいけません。東日本大震災の地震で、この想定宮城県沖地震の領域もずれ動いているが、観測データから既に次の地震のサイクルに入っているとみられる。
- ・政府の地震調査委員会によると1978年の宮城県沖地震と同様なM7.4前後の地震が今後30年以内に発生する確率は、70%~80%程度とされている。
- ・事前の備えが被害を少なくします。家具固定など個人で出来る対策を行って備えていただきたい。

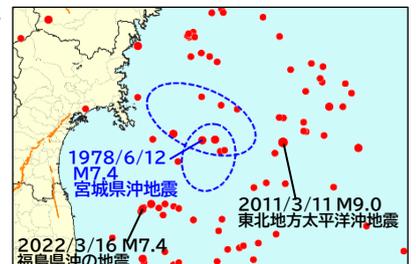


図3:1970年以降に発生したM7以上の震央分布図
青破線は、東北地方太平洋沖地震以前に考えられていた宮城県沖地震の想定震源域(陸側のみ表示)